

展示作品の 카테고리

1 アルピジェラとは

“アルピジェラ”とは、南米チリの民芸品であり、素朴で色鮮やかなキルト作品です。立体的な人形が縫い付けられた表現が多く、暮らしの中のさまざまな場面を描き出しています。

1970年、チリで発足したアジェンデ政権は、世界で初めて、自由選挙によって選出された社会主義政権でした。しかし、1973年、クーデターによりアジェンデ政権が倒され、ピノチェト率いる軍部が政権を握ります。1990年まで続く軍事政権の支配下で、多くの団体や人々が弾圧されました。16万人を超える人々が不当に逮捕され、数多くの犠牲者を出し、今も行方がわからない人々がいます。

圧政に対する抗議の手法のひとつとして、“アルピジェラ”がありました。

政府によって夫や息子、兄弟、家族を奪われた、ポブラシオン（貧困地区）の女性たちが中心となり、“アルピジェラ”を制作しました。軍事政権下で何が起きているのか訴えかけ、証言するために。

2 経緯について

アルピジェラを用いた抗議活動は、国外の理解や支援を得ることに成功します。アルピジェラは国外で販売され、それが彼女たちの抗議活動を支える資金となり、「チリ人民連帯日本委員会」により、日本からも支援の手が差し伸べられました。

「チリ人民連帯日本委員会」で活動していた高橋正明氏（元東京外国語大学教授）が所有していたアルピジェラは、委員会の解散後、同じく委員会で活動していた、詩人でありフランス文学者でもあった大島博光氏の記念館へと譲られました。

「大島博光記念館」では、長年アルピジェラに携わり続け、世界各地でアルピジェラを紹介してきたロベルタ・バシック氏（チリ出身のアルピジェラキュレーター）と酒井朋子氏（東北学院大学）の協力を得て、2013年に展覧会「チリのキルト=アルピジェラに出会う」を開催。

このコレクションは、1988年から1991年までの間に制作されたとみられるアルピジェラ約120点からなります。独裁体制の終焉をたたえると同時に、かつての人権侵害と圧政の記憶を忘れまいとする意志に満ちた作品群です。価値あるコレクションとして、ロンドンのヴィクトリア・アルバート美術館の「Disobedient Objects」展（2014年7月～2015年2月）をはじめ、数点が世界各地のアルピジェラ展覧会にも出品されています。今回ご紹介するアルピジェラは、そのコレクションの一部です。

3 展示にあたって

アルピジェラの国内での紹介は、まだ数が多いとは言えません。いわきアリオスでの展示を通して、市民の皆さまに、その世界に触れていただければと思っています。

ポブラシオンの女性たちが生み出したアルピジェラは、素朴さの中に心揺るがす鋭さを持ったメッセージ・アートです。

ピノチェト軍事政権に対する抗議活動は厳しく取り締まられ、妨害にあつてきましたが、アルピジェラは“所詮女のすること”と侮られ、軽んじられてきました。結果として、アルピジェラは軍事政権の行ったことを記録し、訴え、証言する動かし難い証ともなりました。

アルピジェラとそれに関わる環境、動きについて、いわきの皆さんとぜひ共有したいと思っています。

なぜならそれは、かつてこうしたことがあったという理解に留まらず、不安定な環境に揺れ動く私たち自身に投げかけられたメッセージとしても、深く考えさせられるものだからです。

アルピジェラの鮮やかな布地に縫い込まれた思いに触れ、声なき声が物語ることにぜひ耳を傾けていただきたいと思うのです。

いわきアリオス広報グループ 中村則子

「共同なべ」

共同なべとはポブラシオンでの炊き出しのことで、貧しさのため家庭単位では日々の食事に十分に準備できない人びとのために行われています。会費制で運営されているものや教会によって設立されるものなど、そのあり方は多様であり、支援団体や私的な寄付に支えられていることもしばしばです。屋外に調理場があることも多く、たき火やプロパンガスを使ったものなど、いろいろな形態のなべが見られます。

「ポブラシオンの日常」

アルピジェラの作り手の多くが暮らしていた、大衆居住地区の日々の様子を描く作品群です。軍政下の自由主義経済体制のもと、ポブラシオンの住人たちが勤めていた工場の多くは倒産を余儀なくされ、長期的な失業と貧困が大きな問題として浮上してきます。住民たちは、時には公的な失業対策プログラムのもとで、あるいは自分自身の力で、どうか地域のための仕事を見つけようとしていきました。一方で、苦境にもめげず明るく交流しあう人びとの様子も描かれています。

「アルピジェラの作業所」

ポブラシオンでは、人びとが互いに助けあい、生活に必要な作業をこなし、労働のためのスキルを身につけ、あるいは情報交換を行うためのさまざまなワークショップが開かれていました。アルピジェラによく描かれる主題です。とくにこの作品群は、アルピジェラを作る人びとをアルピジェラで描くという、ちょっとした遊び心のうかがえるものといえるでしょう。

「政治的抑圧」

1973年から1990年までのチリは、政治的・社会的な表現や活動が激しく抑圧される状況にありました。辛苦に耐えかねて立ち上がった人びとのデモは暴力的に鎮圧されました。また政府を批判するメッセージを少しでも発したり、政治行動に関わったと疑われた人は、ある日突然姿を消していくのでした。そして多くの人びとが、後に遺体となって発見されました。

「政治行動」

抑圧的な体制に抗して立ち上がった人びとの行動を描いている作品群です。中心にあるのは、拷問など政治囚に対する人権侵害を告発していくものです。これらの行動は、暴力を用いずに多くの市民の目をひくことを目標にしていました。「孤独なクエカ」や街頭での象徴的パフォーマンスなどです。政治行動にみずから参加し、その経験をアルピジェラに描いていく作り手も多くいました。

「行方不明者はどこに？」

この作品群は内容としては「政治行動」の中に含まれるとも言えますが、アルピジェラの主題としては数多く見られるもので、それ自体の位置を確立しています。「¿Dónde están?」はスペイン語で「彼らはどこにいる?」という意味で、行方不明者についての情報を求める家族や近親者の行動において繰り返し用いられた標語です。AFDDの略称で知られる「拘留者・行方不明者の家族の会 (Agrupación de Familiares de Detenidos Desaparecidos)」は中心となった団体のひとつです。本展の作品のいくつかもAFDDのメンバーによって制作されています。

「孤独なクエカ」

チリの非暴力抵抗行動のなかで、おそらくもっとも印象的で、もっとも知られているもののひとつです。「クエカ」はチリの伝統的なダンスで、色鮮やかな衣装をつけた男女のペアによって踊られます。軍政期に家族が行方不明となった女性たちは、このクエカをたった一人で踊りはじめました。色彩のない白黒の衣装をまとい、夫や家族の写真を胸に留めての踊りは、政治的なパフォーマンスであるとともに、いなくなった大事な人を思う行為でもあったのです。英国のミュージシャンであるステイキングは、1990年、この行動を歌った曲を作っています。

「独裁体制の終わり」

大統領としての任期継続をめぐる1988年の国民投票で敗れたピノチェトは、1990年3月に大統領職を辞しました。これによってチリの独裁体制にひとつの終止符が打たれました。ここに展示されているアルピジェラは、反対票投票の呼びかけと、反ピノチェトの声「ノー」の勝利の様子を描き出しています。

「追悼・記念」

軍政期に命を落としたり行方不明になった人びとを、蠟燭をともして想起し慰霊する人びとを描いています。政治抵抗のメッセージは明白に示されてはいませんが、犠牲者個人個人を回想する行為は、二度と同じことが繰り返されないようにという思いを生み出します。陰惨な行いがあったことを忘れまいとする意志は、必ずしも過去に縛られていることを意味するのではなく、現在および未来のビジョンへとつながっているのです。

解説：酒井朋子（東北学院大学）

展覧会

アルピジェラ

沈黙のなかで物語る、
チリのキルト



2015.

11/5(木) — 30(月) 8:30 ~ 22:30

※11/10(火)は全館休館日のためお休み

いわき芸術文化交流館アリオス
本館1階 東口ウォールギャラリー

観覧
無料

主催：いわき芸術文化交流館アリオス
協力：大島朋光（大島博光記念館館長）
酒井朋子（東北学院大学）
小林園子（大島博光記念館）
ロベルタ・バシック（アルピジェラ キュレーター）



Alios
いわき芸術文化交流館

共同なべ
Soup Kitchen



共同なべと花咲く木
Soup Kitchen with Blossom Tree
[作者] Irma Muller, 1988年
息子とその妻が行方不明になったことをきっかけにアルビジェラ作りをはじめたIrma Mullerは、アルビジェラの作業所を最初期に組織した一人です。多くの作品を残しています。

共同なべ
Soup Kitchen



共同なべに薪を持ち寄る
Bringing Firewood for the Soup Kitchen
[作者] N.A., 1990年頃
住民たちは薪を持ち寄って共同なべに貢献しています。背景の家々やアパートには、主電線から線が引かれています。電気料金を払えない人びとが盗電しているのです。ポブラシオンではよく見られた光景です。

ポブラシオンの日常
Daily Life in a Poblacion



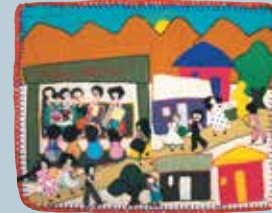
パン焼き所
Local Bakery
[作者] 不明, 1990年頃
アルビジェラの裏面には、ポケットが作られています。背景の家々やアパートには、主電線から線が引かれています。このポケットにはポブラシオンの生活の様子や作り手のメッセージを記したメモが入られ、外国の買い手にチリの社会状況を伝えるものとなりました。この作品のメモには、作り手が共同のパン焼き所で作ったパンを売って日銭をかせいでいたことが書かれています。

ポブラシオンの日常
Daily Life in a Poblacion



ポブラシオンの洗濯所と共同なべ
Soup Kitchen of the Laundrette Women
[作者] 不明, 1990年頃
自宅に洗濯設備をもたない人びとが、共同洗濯所に衣類を持ってきています。背景には、チリのどこからでも視界に入るアンデス山脈、および様々な境遇にある人びとに平等に光を届ける太陽が描かれています。多くのアルビジェラに見られる背景モチーフです。

アルビジェラの作業所
Arpillera Workshop



アルビジェラの作業所
Arpillera Workshop
[作者] 不明, 1990年頃
アルビジェラ作りは女性によって担われることが多かったのですが、ここに描かれている作業所には男性も参加しています。

アルビジェラの作業所
Arpillera Workshop



アルビジェラの作業所 (布を持ち寄る)
Arpillera Workshop (Bringing Cloth)
[作者] 不明, 1990年頃
女性たちがアルビジェラ作りのために家から布を持参しています。

政治的抑圧
Political Repression



1973年9月11日のサンチアゴ
11th September 1973, Santiago in Chile
[作者] Norma Torres, 1990年頃
この作品の裏面にもポケットがあります。作り手が書いたと思われるメモには以下のように記されています。[このアルビジェラは、1973年9月11日、チリの軍隊がサルバドル・アジェンデ大統領のいるモネダ宮殿(大統領官邸)を爆撃する様子を描いています。私たちの国の歴史の悲しい出来事です]

政治的抑圧
Political Repression



アメリカ・ヴェスプシオ通りの戦車
Tanks in Americo Vespucio Avenue
[作者] Ines (名字不詳), 1990年頃
アメリカ・ヴェスプシオ通りはサンチアゴの主要な大通りの一つです。背面につけられたメモにより、自宅のすぐ目の前にあるヴェスプシオ通りが銃を持った兵士と戦車に占領されたことに衝撃を受け、作者はこの作品を作ったようです。

政治的抑圧
Political Repression



国立競技場 2
National Stadium 2
[作者] Mar Mendoza, 1990年頃
軍事クーデターの直後、アジェンデ支持者は拘留され、国立競技場に連行されました。フォーグ・シンガーのビクトル・ハラも、この競技場で殺害されました。入り口横の、「¿MI PAPA? (私のお父さんは?)」と書かれたプラカードを掲げる人物は、このアルビジェラの作者と思われる。

政治的抑圧
Political Repression



ピサグアの政治囚たち
Prisoners of War in Pisagua
[作者] Eliana Astorga, 1990年頃
ピサグア強制収容所は、沙漠と海で囲まれた陸の孤島といえる場所にありました。1990年、軍事政権時代にここで処刑された政治囚の死体が多数発見されました。

政治行動
Direct Political Action



政治囚に自由を
Freedom to the Political Prisoners
[作者] Irma Muller, 1990年頃
政治囚として逮捕された家族や知人の解放を求めて街頭運動が行なわれています。女性たちは、このように行舎や教会など公的な建物の前でよく街頭運動を行っていました。

政治行動
Direct Political Action



MCTSAの街頭行動：拷問反対
MCTSA Demonstration: Punishment to Torturers
[作者] 不明, 1980年代後半
MCTSAとはMovimiento Contra la Tortura Sebastián Acevedo (セバスチャン・アチェヴェド反拷問運動)の略。1983年、アチェヴェドは2人の子どものために当局に連れ去られた数日後に聖堂の前で焼身自殺をはかります。その後、彼の名前をとって人権侵害反対の街頭運動組織がつくられました。

行方不明者はどこに？
Where Are the Disappeared?



彼らはどこに？
Where Are They?
[作者] 不明, 1990年頃
AFDD (拘留者・行方不明者の家族の会)の作業所で作成されたアルビジェラ。行方不明者の顔写真がプラカードとして掲げられている様子が描かれています。

行方不明者はどこに？
Where Are the Disappeared?



彼らはどこに？：プラカード
Where Are They?: Banners
[作者] Violeta Morales, 1990年頃
作者 Violeta Morales はピノチエト政権の人権侵害を告発するアルビジェラを数多く制作しました。行方不明者の家族の運動をモチーフにした作品もそのなかに含まれます。行方不明者の顔写真のプラカードが描かれています。

孤独なクエカ
Cueca Sola



孤独なクエカ
Cueca Sola
[作者] Violeta Morales, 1990年頃
胸に行方不明の夫の写真をつけて踊る女性たちの姿です。

孤独なクエカ
Cueca Sola



孤独なクエカ
Cueca Sola
[作者] Ana Rojas, 1990年頃
「孤独なクエカ」の主題で数多くのアルビジェラが制作されました。作者 Ana Rojas は「AFDD (拘留者・行方不明者の家族の会)」のメンバーでした。

独裁体制の終わり
End of Dictatorship



チリは一体となってノーを叫ぶ
Chile Unifies to Say No
[作者] L.C., 1990年頃
ピノチエト信任の国民投票に向けて、ピノチエト・ノーの運動をする人びとが描かれています。

追悼・記念
Commemoration



死者たちのために
Commemorating the Dead
[作者] 不明, 1990年頃
独裁による政治抑圧のなかで命を落とした家族や知人を悼み、通りに沿ってたくさんの蠟燭がともされています。